学校だより 第441号 令和６年 3月号

牧小だより

子供のよさを見つけ、引き出し、つないで拓く

↑行事写真を
ご覧いただけます

■カウントダウンの日々

例年より早く校庭の梅の花が咲きました。暖かな日差しからも、春の到来を感じます。

６年生の教室には、子供たちが作成した卒業までのカウントダウンのカレンダーが掲示してあります。毎朝教室を回るたびに一日一日と数が小さくなり、巣立ちの時期が近いことを感じます。先日には今年度最後の授業参観、学級懇談会を終え、子供たちと担任は１年の締めくくりをしていく毎日となりました。

学校では、こんな印象的な姿が見られます。

校門でのあいさつボランティアは、児童会のキャンペーンがきっかけとなってずっと続いています。ボランティアに立つ人数が増えたり複数学年にまたがったりするというよい変容がある一方で、もともとの活動の目的が見失われているという一面もありました。２月に入り、ボランティア中止を提案しました。すると、関係する学年の子供たちが全員で校長室に来室し、現状の課題と改善策を説明してあいさつボランティアを続けたいと申し出ました。うれしかったです。子供たちが考えて動いたことがうれしかったです。校長室にやってきた子供たちの顔がとても大人びて見えたことから、教師の投げかけをきっかけにして子供たちが考えて動いたということが見て取れました。これを見た他学年も動き出し、廊下でもあいさつが聞こえるようになり、教室に回って挨拶をしようとすると、わたしより子供たちからのあいさつの方が早い教室が増えました。また、元気な明るい声、顔を見てあいさつをする姿が多く、あいさつが形だけでないことが印象的です。

また、１年生が係の仕事で行っている靴のかかとそろえの実態を昼の放送で伝えると、徐々に全校の靴箱が美しく整うようになりました。このことは他の場にも影響しています。放送室は上靴を脱いで入りますが、以前は脱いだままの向きになっていたり左右がばらばらになっていたりすることが多かったのですが、きれいに整うようになりました。小さな１年生の動きがこの変容を生みました。さらに、６年生が１年生のこの様子を全校に紹介した放送をきっかけに、学年を飛び越えた認め合いの放送が連日続いていることも印象的です。またある朝は、５年生が教室の中で小集団になっていたので何をしているのかと尋ねると、それぞれが担っている一役の活動に取り組んでいるということでした。忙しそうにしていましたが、どの子供もやるべきことを果たそうと生き生きとした表情であること、次期リーダーへの準備が進んでいることが印象的でした。

つくづく学校とはすばらしい場だと感じます。同じ時間を共有するだけで、子供たちの素直さや吸収力が互いをどんどん高めていくからです。そんな子供たちを間近で見ることができて教師という仕事は幸せな職業だと思います。

同時に、子供を育てるという目的を共有し合って認めたり広めたりする職員群の采配も頼もしいと感じます。微力かも知れませんが、子供たちの今日、小学校卒業後、そして子供たちが社会人となっていく日を想定しながら、それぞれの力の精一杯で子供たちと向き合っている職員はわたしの自慢ですし誇りです。かわいい子供たちと信頼できる職員と共に、一日一日カウントダウンしながらしっかり締めくくっていきます。

■地域で見守っていただいている牧小学校

地域の方から手紙が届きました。２月はじめの大雪のあとです。子供の行為も、それを伝えてくださる地域の方の手紙もうれしくて、受け取ってすぐに放送で紹介しました。

（手紙からの引用）

昨日の大雪で、わたしが働いているグループホームの玄関先にもたくさんの雪が積もっていました。玄関先は人の出入りがあるため雪かきが必要でした。スタッフも雪かきをしましたがすぐに積もる状態。偶然外で遊んでいた複数人の子供たちに、「よかったらここの前の雪で雪遊びをして雪をどけてくれないかな」と声をかけると、二人の子供が玄関に置いてあったスコップで一生懸命に雪かきをしてくださり、とても助かりました。雪だるままで作って置いていってくれて、施設のおじいちゃんおばあちゃんもかわいい雪だるまに心がほっこりでした。感謝の気持ちでいっぱいです。

スタッフ一同より

あらためて、保護者のみなさんと地域のみなさんと、そして学校が手を取り合って子供を育てていけることを感じました。

校長　古市　諭香